翠会

金沢女子大学
金沢学院大学同窓会

［会 報 誌］

The Bloom 2010

翠会 会長挨拶
「第１期卒　下置 宏子」

2009年度 総会報告

総会に参加して
「第13期卒　大角 博樹さん」
「第19期卒　中川 翔太さん」

新学長 槻木 裕 先生からのメッセージ

恩師を訪ねて「木梨由利 先生」

同窓生の職場探訪
「第6期卒　山本 博美さん」

金沢学院大学公開講座について
作家 赤川次郎氏「私の創作ノート」

翠会からのお知らせ「役員紹介」

編集後記

翠会からのお知らせ

翠会では毎年８月に金沢で総会を開いております。是非この機会に、懐かしい皆さんとクラス会を兼ねて集まってみてはいかがでしょうか？　お待ちしています！

日時：平成 22 年 8 月1日(日)　14時15分～18時00分
場所：金沢エクセルホテル東急（金沢市香林坊 2-1-1　TEL:076-231-2411）

当日の予定

◆総会　14:15～14:45　5階『フォレストルーム』（受付 13:50～）
議題 (1) 平成 21 年度事業報告・会計報告について　(2) 平成 22 年度事業計画（案）・会計予算（案）について
(3) 奨学金制度報告について　(4) その他
◆記念講演 15:00～16:00　5階『エクセレントルーム』（受付 14:30～）
講師　金沢学院大学学長　槻木　裕　氏　テーマ『人文学の特徴と魅力』
◆懇親会 16:20～18:00　5階『バインルーム』（受付 16:00～）【立食形式、会費無料】
＊今年の記念講演は、皆さんの恩師でもある槻木先生が4月より本学の学長になられたのを記念し、『人文学の特徴と魅力』というテーマでもう一度私たちに授業をしてくださいます。

平成22年度翠会役員紹介

第１期卒 下置（旧姓 宇野）宏子	第１期卒 奥田（旧姓 丹羽）麻理	第１期卒 松本（旧姓 本田）邦子	第１期卒 青柳（旧姓 浅野）貴子	第４期卒 矢野 里枝	第５期卒 上原（旧姓 毛利）佳寿美	第６期卒 愛山（旧姓 佐々木）つかさ
第６期卒 吉田（旧姓 岡田）千里	第６期卒 山崎 美保	第６期卒 西出（旧姓 加藤）可奈子	第７期卒 大内（旧姓 大澤）栄映	第９期卒 押野谷　尚子	第９期卒 小村　秀明	第９期卒 星野（旧姓 小林）寛
第９期卒 福井　尋一	第１２期卒 奥井　伸吾	第１２期卒 池田　勇輝	第１３期卒 山崎　沙織里	第１５期卒 村上　丈史	第１５期卒 野中　彩	

編集後記

皆様、「金沢女子大学・金沢学院大学同窓会　翠会会報 2010～The bloom～」はいかがだったでしょうか？
今号より池田 勇輝（12期卒：経営情報学部）、村上 丈史（15期卒：文学部）が担当致します。
担当者も変わったことで紙面も若干リニューアルされましたが皆さまお気づきになられましたか?
これからもみんなの会報を目指して、担当者はもちろんのこと役員一同がんばっていきますので、よろしくお願いします。
最後になりましたが、今年も会報を発行するにあたり、「総会に参加して」に原稿を提供してくれた、中川　翔太さん、大角　博樹さん、同窓生の職場探訪の山本　博美さん他、たくさんの方々にご協力いただきました。
この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

<募集中> 総会などの要望があれば、どしどしお便り下さい。執行部で参考にさせて頂きます。

●ご意見、ご感想はこちらまで。 midori@moon.ucatv.ne.jp

■発 行 日　2010 年 7 月　　■発　行 「翠会」 〒920-1392　石川県金沢市末町10
■編　集　池田 勇輝（12 期卒：経営情報学部）、村上 丈史（15 期卒：文学部）

新学長からのメッセージ：雲海の中の連続性

Profile

金沢学院大学学長
槻木　裕　先生

～経歴～
1949 年 石川県生まれ
1971 年 金沢大学法文学部卒業
1976 年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
1978 年 金沢女子短期大学講師
1991 年 金沢女子大学文学部教授
2007 年 金沢学院大学文学部長

主な研究業績
M. ホリス『ゲーム理論の哲学－合理的行為と理性の狡智』（全訳、晃洋書房、1998 年）
『現代の無我論－古典仏教と哲学－』（晃洋書房、2003 年）
『文学でたどる浄土真宗のエートス－問いかける仏、問いかける宗教－』（探究社、2009 年）

「人生は山あり、谷あり」とは結婚式の決まり文句であるが、私の今回の学長就任に関してはみんなが驚いたようである。無理もない、私自身が一番驚いたのだから。

発表の少し前にこの話があり、結局私はうなずいてしまったのだが、その時の心境の一端は、還暦を過ぎ、定年退職も視界に入ってきて着陸態勢に入りつつあったのに、「機首をあげろ」といきなり指示されたパイロットを想像すれば、だいたい了解されよう。しかも「今後の行く先はお前さんに任せる」ときたもんだ。こんなとき件(くだん)のパイロットは「はぁっ?」とか「へぇっ!?」とか、言葉にならないことを管制官に発するものと思うが、まあ、そんなところである。しかも今のご時世―不景気、少子化……、「快適な空の旅」とは旅行会社のパンフだけのことで、厚い雲海、視界不良ときては、「よくまあ、引き受けたものだねぇ」と繰り返し自分で呆(あき)れるのも、宜(むべ)なるかな、である。

四月からやらなければいけないことがたくさんあって（この原稿を書いているのは三月末）、同窓会への対応も機長の重要な任務である。それにしても思い出されるのは、確か金沢女子大学の設立一年目の学園祭のことだったと記憶するが、「人数が少ないのだから、短大生と一緒にやれば」との強い忠告を振り切って、「私たち単独で学園祭をやります」と言いきった金女大一期生のことである。街頭で学園を、学園祭をアピールしようということになって、花魁(おいらん)道中を企画し、香林坊から片町をねり歩いて、けっこう話題になった（もっとも私は指導教員の一人として当時の林学長から、「槻木君、花魁の意味を知っているのかね」と苦笑まじりに“厳重注意”された）反面、二日目は雨にたたられて、人出も少なかった、そんなことを今でもため息まじりに思い出す。

今回語りたいことの核心は、この「私たち単独で学園祭をやります」に含まれる強烈な、自分たちのアイデンティティ意識、すなわち短大との非連続意識である。大学も短大もその後共学化したが、翠会との関連で言えば、女子大から学院大へと姿を変えたとき、喩えて言うなら、「母校」たる“母”が再婚し（て子どもができ）たとき、母を祝福（し、できた子どもを異父兄弟として迎え入れることが）できるか?―それが金沢女子大の卒業生にはことのほか切実な問題で、教員といえども、なかなか入りこめない部分だということなのである。なかには「母はもういないのです（死んだのです）」と言い切る人もいるだろう。

実はこの問題、「アイデンティティ（同一性）の問題」として哲学の一角を占める問題なのだ。例えば昔「西鉄ライオンズ」という福岡を本拠地とする球団があったが、西武が買収して「西武ライオンズ」と名のり、福岡には「南海ホークス」を前身とする「ソフトバンク・ホークス」ができたとき、西鉄ファンであった人は、どの球団に連続性を認めるのか?という、そんなことを考えてみる問題なのである。もちろん「西鉄は死んだ」という非連続面により注目する意見も当然許される。哲学のご多聞にもれず、この問題もはっきりとした結論は得られず、連続性や非連続性をどの程度感じるかは割合任意で、その人次第だというのが哲学的な一応の結論で、私もそれに賛同するのだが、それならば―まさしく、それならば―同窓生の諸君には「母は再婚したので、（あのときの）母はもういない」などと思わずに、卒業生をその後も送り出し続ける母をあの時の母と同じ（連続性を持った）母とできるだけ思ってほしいと、私から強く懇願要請したいと思うものである。それは、「二十歳前後の美肌は失われ、しわが増えた」ゆえに「あのときの私はもういない、あのときの私は死んだ」とはたいていの人は思わず、どんなに変化しても「変わらず自分であり続けている」と思っている（思いたい）のと、理論的にはそんなに大差ない（?）。

まあ、こんな哲学の議論はこの際どうでもいいが、卒業後にさまざまな人生経験を積んだとすれば、強烈なアイデンティティ意識は狭小な排他意識を伴いやすいということをよく自覚して、できるだけわだかまりを抑え、八月の翠会に集って、雲海を操縦する不安な新米機長を少しでも励ましてくれれば、ことのほか嬉しい。ご出席をお待ちしている。

翠会より

今年の記念講演は、皆さんの恩師でもある槻木先生が4月より本学の学長になられたのを記念し、『人文学の特徴と魅力』というテーマでもう一度私たちに授業してくださいます。奮ってご参加下さい。

翠会会長あいさつ

翠会会長
第１期卒　下置（旧姓 宇野）宏子

翠会の会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？毎回、できるだけ多くの同窓生に参加して欲しい、興味を持って欲しいという思いで活動して参りました。少しずつですが、「行ってみようかな」と、同窓会総会にお顔を見せてくださる方が増えてきて、とても嬉しく思います。

さて、世界的な不況がなかなか明けない暗い経済状況が続いております。そんな中、同窓会では奨学金の規定を見直し、より多くの学生たちの力になれるように、同窓会表彰等の設置を検討しております。

また、会員の皆様の大切な会費を有効に使うべく、昨年は同窓会総会の会場を大幅に縮小し、経費節減に努めました。

来年は同窓会設立 20 周年を迎える節目の年にあたります。更に、同窓会活動を知っていただき参加していただくために、今年も経費節減に努め、来年の 20 周年総会がしっかりと開催できるように、我々執行部も鋭意努力して参ります。

この会報に毎回書いている事があります。それは、同窓会は決して役員だけで成り立っているものではありません。この会報を受け取っている方は皆さん総会に参加し、講演を聞き、懇親会に参加する資格と権利があるのです。今年こそ、是非参加してみてください。いつでもお待ちしております。

翠会総会報告

今回の翠会総会は2009年8月2日(日)に行われました。

会長の挨拶では同窓会 20 周年に向けて、今回は恒例となった講演会を行わず経費を節約していること、奨学金の議題、より多くの後輩のために活動していることなど報告がありました。

懇親会では前回の会報でご紹介させて頂いた同窓生のにし茶屋街の「ゆめ吉」さんこと中村 美彌子さん達に踊りを披露していただきました。我々にはすこし敷居が高く、なかなか味わえないお座敷遊びを身近に体験出来たひと時でした。

翠会総会に参加して…

第13期卒 大角　博樹さん

Q1 参加は何回目でしょうか？
A. 2回目。

Q2 一番初めに行こうと思った時のきっかけは何だったのでしょうか？
A. 同じ能楽部の先輩が役員のメンバーに入っていたのと、今までずっと、実家に案内状が送られてきていて、たまたま日帰りで帰省した際、出欠の締め切り前に案内を見ることが出来たからです。

Q3 今回一番面白い、もしくは楽しいと思ったこと
A. 初対面になる女子大時代の先輩方ともお話が出来たこと。

Q4 その他ご感想頂ければ。
A. もっともっとたくさんの方が懇親会に参加して下さることを切に願います。

第19期卒 中川　翔太さん

Q1 参加は何回目でしょうか？
A. 今回、初めて参加させて頂きました。

Q2 一番初めに行こうと思った時のきっかけは何だったのでしょうか？
A. 会報を見て興味を持ちました

Q3 今回一番面白い、もしくは楽しいと思ったこと
A. 芸妓さんの舞はテレビでしか見たことがありませんでしたが、当日はほん家で芸妓さんをされているゆめ吉さんに舞を披露して頂き、貴重な体験でした。また、先輩方との会話もとても楽しかったです。

Q4 その他ご感想頂ければ。
A. 当日は友人と参加する予定でしたが、あいにく仕事の都合で来られなくなり、一人で参加するのは正直心配でした。
実際に総会に出席すると、会場の空気は私には重く感じられ、場違いな所に来てしまったという思いでいっぱいでしたが、役員の方に気さくに接し頂き、それまで抱えていた心配や不安がいつの間にか無くなっていました。
懇親会ではゆめ吉さんの舞や先輩方との談話など貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

恩師を訪ねて

Profile

木梨　由利　先生
大学院人文学研究科　教授
文学部国際文化学科長
邦楽部、華道部顧問
〜著作・作品等〜
『ジェイン・オースティン―小説の研究』
（荒竹出版）（共著）
『英語文学事典』
（ミネルヴァ書房）（共著）　他

平成12年4月に文学部英米文学科を国際文化学科に名称を変更してから今年で10周年を迎えます。学科の特色を教えていただけますか？

英語と心理学が学べる学科で、英語コースと心理学コースが一つの学科になっていることは珍しいスタイルです。社会学や哲学、文化人類学などいわゆる人間学が学べる学科でもあります。心理学は基礎からきちんと学べて、希望する大学院へ進学することも可能です。
留学がとてもしやすく、従来の全学生を対象とした海外派遣留学制度に加え、特に教員志望の為の留学制度が4年前に発足しました

現在の学生さんの印象はいかがですか？

真面目で性格もいいです。同級生同士、学年の枠を越えて学生生活を楽しんでいます。が、少し欲がなさすぎるように思われます。学生時代しかできないことに積極的に取り組んでほしいと思います。

今春、文学部として初めての大学院修了生が誕生しますが、大学院の特色や内容を教えていただけますか？

昼間仕事されている方でも受講していただけるように原則として夜に授業が行われます。国語、英語、社会科の専修免許状が取得でき、今春は6名の方が修了されました。

また、平成22年度より「フレックス履修」という制度が導入されました。これは、通常2年（32単位）で修了する修士課程を最大6年まで延長することができます。

ところで、翠会が来年で創設20周年を迎えます。翠会、同窓生に要望やメッセージがございましたらお願いします。

同窓会ができて20年と言えば、今や大勢の方々が、社会の核になっておられるわけですね。お年賀状で状況をお知らせいただいたり、偶然に街でお会いして、ご活躍ぶりの一端をお聞きするのは、教師にとってなにより嬉しいことです。どうぞ、今後ともしっかりした歩みを進めていただきたいと思います。

そして、皆様方の着実な一歩が、ご自身のためばかりではなく、同窓のお仲間やこれから同窓生となる後輩たちにも大きな力となり得ることに、思いを馳せていただきたいと思います。歳の離れる先輩でも心がつながる思いにさせ、一人ではできないことも可能にし得る、それが同窓会というものの力です。豊かに葉を茂らせ、木陰に集う人々を憩わせる大樹のように、20年を迎えた同窓会をますます大きく育てていただきたいものです。

先生、どうもありがとうございました。

平成 22 年度　金沢学院大学公開講座について

昨年11月27日(金)に本学の公開講座で作家赤川次郎氏「私の創作ノート」と題して講演が行われました。赤川氏は「自身がどう生き、どう人生を見てきたかが創作の原動力となる」と語り、作家として創作意欲をかき立てる本や映画、音楽に触れる大切さを説き、学生や市民ら約250人が聴講しました。

このように金沢学院大学では、定期的に一般の方々が参加できる公開講座を無料で開講しております。パソコン講座や歴史・文学講座、小学生を対象としたスポーツ教室など様々なジャンルがそろっております。みなさん、ぜひ参加してみてください！

なお、今年度の公開講座一覧を同封しておりますので、ご参照ください。

同窓生の職場探訪

山本　博美さん
第６期卒　日本文学科

Q1. 今の仕事の内容を教えてください。

中学校の教諭で、教科は国語科。３年生の担任をしています。国語だけ担当すればいいかというと、そうではありません。

その他に、学活、道徳や総合的な学習の時間などがあります。放課後の部活動も大切です。また、休みはほとんどありません。土日も部活動です。夏休みや、冬休みは通常勤務です。世間の皆さんからは、「先生はいいなぁ、夏休みがあって」とよく言われますが、生徒が登校しないだけで、普通に勤務しています。

Q2. 今の仕事に就かれたきっかけを教えてください。

小学校の頃から、漠然とですが、先生になりたいと考えていました。ちょうどその頃、自分のことをよく理解してくれる素晴らしい先生方と出会い、自分もこんな先生になりたいという夢を持ちはじめました。その後もその希望は変わらず、教師になることを夢見ていました。

そして高校2年生の頃に出会った国語の先生に小論文などを指導していただいたのですが、ある日その先生が、「教師とは、生徒に教えることよりも、生徒から教わることの方が多いと思う。」とおっしゃっていました。私の教師や教育に対する考え方は、その時に大きく変わりました。現在も常にそのことを心にとどめ、生徒たちと接しています。

Q3. 学生時代を振り返って

やはり、思い出すのは友と語り合った日々です。大講堂の真ん中で、授業が始まる前に友達が集まり他愛もない話をする。そんな時間が好きでした。時には、筆談なんかもしましたが・・・。また、同じ目標に向かってそれぞれの場所で戦った、教育研究所の仲間との合宿なども心に残っています。また、尾口研修センターでの合宿は内容の濃いものでした。

あとは、勉強です。国語が苦手だった私は、文学部に入学してとても苦労しました。前後期の試験前になると、徹夜で勉強したものです。

Q4. 今まで困ったこと

現校も前任校も、保護者の方々の理解がとてもあり、保護者と教師がしっかりと協力して、子どもたちを育ててこられたと思います。もちろん、意見の違いはあり、話し合うこともあります。その際、必ず顔を合わせて話すことが大切だと考えています。そうすることで、誤解もなくなります。

それよりも、教員の研修が昔よりも多くなり、生徒と一緒に活動する時間が減ったことがさみしいです。大切な部活動の大会に参加できないこともあります。

Q5. 今までで一番うれしかったこと、先生になってよかったこと

初担任、初新入生、初卒業生、体育祭応援初優勝、合唱コンクール初最優秀賞、生徒からの初手紙、なんでも初めての時は嬉しかったです。あとは、中学校や高等学校卒業後にかつての教え子からかかってくる電話です。就職が決まったとか、大学に進学するとか、結婚するなど、嬉しい知らせがこれまでも何度もありました。先生になって良かったのは、やはり、生徒たちと気持ちが通じ合えたときです。

Q6. 今一番関心のあることはなんでしょうか？

やはり、自分の命を粗末にしてしまう人が増えたことが気になります。

私は、3年生を担任したとき、命の大切さを子どもたちにわかってもらうために、保護者の皆さんに頼んで、我が子宛の手紙を書いてもらうようにしています。受験を前に不安になっている、また、これから社会に出ることへの恐れを抱いている子どもたちに、少しでも「あなたは、この世にたった一人の大切な人」という気持ちが伝わればと思って、子どもたちへのメッセージを書いていただいております。内容は、その子が生まれたときのことや、小学生の頃大病をしたなど、親として大切に育ててきたと言うことが伝われば、子どももその一つしかない命を大切にしてくれます。その手紙を匿名で披露するのですが、多くの子どもたちは、泣きながらその手紙を聞いています。大体は、「あっ、これは自分宛の手紙だ」とわかるようです。これも保護者の強い思いからなのでしょうか。

Q7. 同窓生にメッセージを

もし、偶然にも皆さんのお子さんを担当することになりましたら、金沢女子大(学院大)の卒業生と、一声おかけください。よろしくお願いいたします。これからも正面から子どもたちに向き合い、直球勝負をしていきます。